

船橋市 農委だより

令和2年
(2020年)

1/1 第99号
年2回発行

発行 船橋市農業委員会
編集 農委だより編集委員会

〒273-8501 船橋市湊町2丁目10番25号
TEL 047 (436) 2742~5
URL <http://www.city.funabashi.lg.jp> (船橋市役所)
e-mail nogyo@city.funabashi.lg.jp

FUNABASHISHI NOUIDAYORI



市内及び近隣市の農地を借り受けて農業を営む馬込西の澤田 一男さん。農地・農家が共に減少傾向にある船橋市において、市内有数の規模で営む新たな農業経営のスタイルが注目されています。詳しくは6ページ「がんばる！農家訪問」をご覧ください。



年頭のごあいさつ



船橋市農業委員会

会長 岡庭 一美

新年おめでとうございます。

日頃より農業委員会活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

昨年5月に元号が平成から令和に変わり、新しい時代の第一歩を踏み出しましたが、残念ながら台風15号、台風19号、その後千葉県豪雨により多くの災害が発生いたしました。被害を受けた方々が一日も早く生活の再建ができるよう心よりお祈り申し上げます。

さて、本市の農地は新鮮な農産物を安定的に供給するとともに、緑といった都市景観や雨水の貯水機能など地域社会を維持するために多面的役割を担っております。

一方、農業者の高齢化や担い手不足といった厳しい状況に直面していることも事実です。

このような状況の中、私たち農業委員と農地利用最適化推進委員は、本市の農地を残し、守っていくために農地利用状況調査や違反転用パトロールなどの農地を守る活動を行いながら、次世代に農業を継承するための一助とすべく若手農業者と話し合いを行うなど、「人」と「農地」を将来にわたって維持し、発展するような取組を今まで以上に進めていく所存でございます。

最後になりましたが、本年が天災に見舞われることなく、農業者の皆様にとって実り多き一年であることを祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も農業委員及び農地利用最適化推進委員に対する皆様のご支援とご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます。

農業委員

小池正一	(二和東)
湯浅清春	(八木が谷)
石井俊郎	(東中山)
藤城孝義	(高根町)
菊池眞夫	(本中山)
高橋光一	(旭町)
齋藤教子	(坪井町)
興松勲	(中野木)
神山茂樹	(豊富町)
土槁博之	(三山)
石山幸男	(馬込町)
小川晃	(東船橋)
金子一雄	(前貝塚町)
岡庭一美	(三咲)

(議席順)



謹んで新年のご挨拶を申し上げます

委員一同



農地利用最適化推進委員

飯島行雄	(金堀町)
伊藤栄一	(前貝塚町)
伊藤賢司	(二和東)
岩佐常信	(坪井町)
織戸孝	(飯山満町)
櫛田直樹	(飯山満町)
齊藤義夫	(金杉)
白井廣司	(神保町)
平野恵昭	(西船)
藤平尚志	(大神保町)
三橋誠	(東町)
武藤英夫	(小室町)
渡邊和雄	(車方町)

(五十音順)

松戸徹 船橋市長へ

令和2年度 船橋市農地等の利用の最適化の推進に関する意見書を提出

市農業委員会では昨年9月2日に、「令和2年度農地等利用最適化推進施策に関する意見」を松戸徹船橋市長に提出しました。

意見書は次年度の市の施策に反映させることを目的に、委員や関係団体からの意見を取りまとめ、農業委員会総会で決定したものです。意見書の概要は次のとおりです。全文は船橋市ホームページをご覧ください。

- 1 耕作放棄地の発生防止及び解消について
市においても耕作放棄地解消への支援の充実や耕作放棄地を活用した事業など、積極的な施策の実施をお願いしたい。
- 2 農業経営の安定化及び担い手の育成について
農業経営に対する支援に加えて、後継者や新規就農者への支援にも積極的に取り組んでいただきたい。
- 3 周辺住民との調和について
周辺住民にも農業の持つ多面的価値を評価してもらえるよう、開発事業者等が購入者に対して丁寧な説明を行うよう指導を願いたい。
- 4 船橋市の農業のPRについて
市においても、農産物のみならず、船橋市の農業全体についてより一層のPRに努めていただきたい。
- 5 学校における食育について
 - (1) 農業体験を通じた取組について
今後も食育を通じた農業に関する取組を積極的に行っていただきたい。
 - (2) 地産地消の推進
学校給食に船橋産の農産物がより多く使用されるように引き続きお願いしたい。
- 6 生産緑地法等の改正に伴う対応について
生産緑地法の改正に伴う新制度や、生産緑地の賃借について引き続き積極的に周知するとともに、生産緑地指定の下限面積を緩和していただきたい。
- 7 税制について
農地に係る税制について、国や関係機関への働きかけなど引き続き検討をお願いしたい。



農地利用の最適化に向けた農政への意見書を岡庭一美会長から松戸徹市長へ手渡しました。

農業者年金で安心・豊かな老後を

◎農業に従事する方の老後の安心に役立ちます。

国民年金 + **農業者年金**

◎こんな方が**加入**できます。

- ①国民年金第1号被保険者
- ②年間60日以上農業に従事
- ③20歳以上60歳未満の方

◎**積立方式**だから自分がかけた金額は年金として**生涯**もらえます。

仮に80歳前に亡くなった場合でも死亡一時金が遺族に支給されます。

◎保険料は**いつでも変更**できます。

月々2万円から6万7千円まで

◎支払った保険料は**全額社会保険料控除の対象**になり**所得税、市県民税等の節税**になります。

◎保険料の**国庫補助**が受けられます。

例：認定農業者等で青色申告者で35歳未満の人は10,000円（5割）補助

お問い合わせは、**農業委員会事務局**
047-436-2745 まで

第52回農水産祭 「都市農業PR」 船橋産野菜等を完売！高い新鮮野菜へのニーズ

昨年11月9日、東武船橋駅コンコースで、船橋市農業委員会が主催する第52回船橋市農水産祭「都市農業PR」が開催されました。

当日は晴天の中、農業委員、農地利用最適化推進委員、市内の農業経営者が出品した地元産の野菜や花卉等を現地で展示・販売しました。

今年もたくさんの方が集まる中、坂本昭弘東武船橋駅長による「出発進行！」の笛とともに即売会を10時30分にスタート。

野菜類を展示した6つのブースには老若男女の多くの人で大混雑。人参、小松菜、大根、春菊、ねぎ類、さつまいも、トマト、ほうれん草などが飛ぶように売れていく様子は圧巻で、改めて新鮮な野菜に対するニーズが高いことを示しました。シクラメン、パンジーなどのコーナーでは一時、20人以上が並んで順番を待つ場面もありました。

船橋産野菜を使ったレシピの配布や小松菜を配布するアンケートも実施。熱心に立ち姿でアンケートを書き込む姿も見られました。

即売会とともに行われた東武鉄道によるSL大樹の模型の展示では、子供たちが大樹と一緒に楽しそうに写真に写る姿が見られました。また、船橋警察署の生活安全課により振り込め詐欺の被害に遭わないよう、市民に呼びかけが行われました。

即売会は大盛況。「おいしそうな野菜だね」と語り合う老夫婦、ベビーカーを押しながら購入した野菜を吊り下げて歩く主婦、「今度はいつ？」と尋ねる人もいました。

一方、売る側もてんでこ舞い。自ら生産した野菜への自信と、普段経験の少ない多くの人への直接販売に戸惑う姿が新鮮で印象的でした。

関係者の皆様、協力者の皆様、そして地元産野菜の展示、即売会で購入していただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。



都市農業は船橋の魅力の一つと挨拶する松戸市長



生産者と消費者の活気溢れる売り場と飛ぶように売れていく野菜たち

「都市農業PR」アンケート結果

- ◆ 本日の野菜即売会をどのようにして知りましたか (複数回答可)

 - ・ 市のホームページ 21名 (21%)
 - ・ 広報ふなばし 57名 (57%)
 - ・ チラシ・ポスター 12名 (12%)
 - ・ 通りがかり 14名 (14%)

- ◆ 今までに船橋産の野菜を買ったことはありますか

 - ・ はい 98名 (98%)
 - ・ いいえ 2名 (2%)

- ◆ 船橋で野菜や果物など、多彩な農作物が生産されていることを知っていましたか

 - ・ はい 99名 (99%)
 - ・ いいえ 1名 (1%)

- ◆ 船橋の農業をPRする方法として、どのようなものがよいと思いますか (複数回答可)

 - ・ 即売会等のイベントを開催する 77名 (77%)
 - ・ メディアを使って宣伝する 16名 (16%)
 - ・ 農業を体験できる場を設ける 20名 (20%)
 - ・ スーパーに船橋産野菜のコーナーを設ける 47名 (47%)

※ 回答者100名
ご協力ありがとうございました

合同視察「夢ある農業総合研究所」を見て

昨年10月25日、日本の三大農業機械会社の一つである井関農機(株)が運営する「夢ある農業総合研究所（茨城県つくばみらい市）」に、農業委員、農地利用最適化推進委員、農業モニターの合同視察で訪れました。

同研究所は変化の著しい日本の農業に対応すべく、ロボット技術やICTを活用した、人に優しく、品質の確保や作業効率化を追求するために設立された施設です。

最新鋭の農業機械の展示やそれらの機械を使った実証システム提案、普及促進に向けた研修、さらには技術面のサポート、人材育成のための教育、農業女子プロジェクトの開催など多様な事業を展開しております。

当日は、同研究所の研究員による概要説明のあと、本館展示フロアにおいて最新鋭の水田用機械や、野菜類の生産、管理における数々の機械化体系の提案を見せていただきました。

特にGPSの活用により、正確性が格段に進み、その結果、効率性が飛躍的に向上し、品質の高い商品が供給できるシステムが構築されたとの説明があり、農業分野も新たな技術開発により、変革期にきていると改めて感じさせられました。

船橋市の農業は都市近郊農業であり、必ずしも大規模化が進んでいるとは言い難い面があります。それでも随所に目を開かせられる数々の発想と提案がありました。よりよい品質の野菜

類を効率よく市場に提供し、併せて国際競争力を付与していくには、ICTやロボット、ドローンなどの最新鋭技術の活用が必要だと改めて感じることができました。



GPS ガイダンス搭載トラクタ



最新鋭の技術に目を見張る参加者たち





15haで野菜づくりをする

さわ だ かず お
澤田 一男さん (馬込西)



今後の規模拡大については「難しい」としつつも、人材の育成と確保には余念がありません。

掲載4回目となる『がんばる！農家訪問』、今回は船橋市内を中心に約15haの農地で野菜づくりに取り組んでいる澤田 一男さんに登場してもらいました。

都市型農業地帯の船橋はさまざまな公益的機能を有する農地の維持・確保が大きな課題の一つとなっています。澤田さんは現在49歳。自己所有の農地に加えて船橋市内を中心に松戸・鎌ヶ谷・八千代といった近隣市の農地を借り受けて農業を営んでいます。経営面積の15haは市内有数の規模であり、新たな農業経営のあり方の一つとしても一石を投じています。

大根を中心にねぎや枝豆を生産し、卸売市場を活用してスーパー等に販売していますが、規模拡大と共に大型農業機械やトラック等を導入し、利益を上げています。

農地の集積や規模拡大による生産性の向上は国や自治体の大きな目標の一つ。澤田さんはそれを体現している一人です。

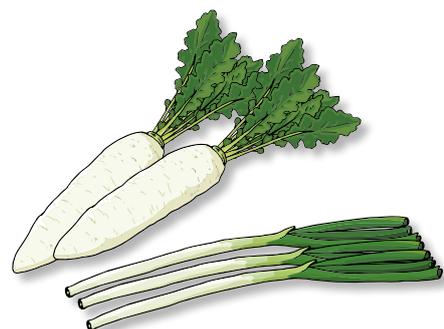
澤田さんに規模拡大のポイントを聞くと「人の確保です」ときっぱり。優れた人材の確保・育成を通じて規模を拡大し、現在は10～12人を常時雇用しています。雇用形態の基本は常用雇用、募集についてはハローワークやアグリナビに掲載しているそうです。

従業員の勤務は原則朝7時から夕方4時まで、休日は土曜日と定めており、法的な経営手法を取り入れています。

人材の育成については、相対でコミュニケーションを図り、責任ある仕事を任せ、それを検証するといった作業を入念にキメ細かく行うことを基本にしています。

妻の三江さんは非農家出身ですが、「二人三脚で今日のスタイルを確立した相棒」と語り、全幅の信頼を置いているといい、自身の後継者については「未定です」と含みを持たせています。

農地の宅地化が促進され、放棄地の水準が高く推移している中、澤田さんが築いた農業経営のスタイルは船橋市が抱える課題の解決策の一つとして、大きな注目を集めています。



農業モニター・消費生活モニターとの 合同座談会を開催しました

令和元年度の農業モニター、消費生活モニター、農業委員、農地利用最適化推進委員の合同座談会が今年の8月8日に行われました。

今回の参加者数は消費生活モニター42名、農業モニター4名、農業委員9名、農地利用最適化推進委員9名でした。

今回の座談会のテーマは「都市農地の重要性と都市農業を守るために必要なこと」。参加者全員が6班に分かれて、減少傾向にある船橋市内の農地と農家を守るために何ができるかを話し合ってもらい、各班ごとに発表してもらいました。

発表の主な内容は以下のとおりです。

- ・船橋野菜のブランド化を推進し、市内外へ周知、アピールしていくことが重要である。
- ・販売促進のためにインターネット等を活用した、若年層の方に向けた販売方法を考えていく必要がある。
- ・耕作放棄地を活用し、農業ボランティア等を募集することで、土いじりの楽しさや農への理解を深めてもらえるのではないかな。

普段、生産者と消費者がそれぞれの立場から直接意見を交換できることはなかなかないため、非常に実りのある催しとなったと感じました。

生産者の意見の中には、消費者の意見が直接生産者の工夫や成長につながるため、今後もこのような機会を増やしていきたいという声もありました。昨今の都市農業を取りまく環境は非常に厳しい状況ではありますが、生産者と消費者が歩み寄っていくことが、船橋の都市農業のさらなる発展の糸口となるのかもしれません。



それぞれの立場から活発な意見交換



たくさんの意見や提案が発表されました



2020年農林業センサスに ご協力お願いいたします

農林水産省では、令和2年2月1日現在で「2020年農林業センサス」を実施いたします。
農林業センサスは、我が国の農林業の生産構造や就業構造の実態とその動向を把握し、農林行政の企画・立案・推進のための基礎資料を作成・提供することを目的に5年ごとに行う大切な調査です。

全国の農家や林家をはじめ、すべての農林業関係者を対象に行われる「農林業に関する国勢調査」ともいふべきものです。

1月中旬以降、農林業を営んでいる皆様のところへ調査員が訪問しますので、経営状況等を記入する調査票への記入など、調査へのご協力をお願いいたします。



連絡先／船橋市 総務課 統計係 TEL 047-436-2063



小松菜とにんじんのケーキ

三須 千恵美さん(山野) 考案

第51回 船橋市農水産祭農産品評会
船橋市長賞受賞

材料(直径18cm型)

- | | |
|------------------------|--|
| ● にんじん……………1本(140g) | { ● 薄力粉……………180g
● ベーキングパウダー… 小さじ1/2
● グラニュー糖……………140g
● オリーブ油……………3/4カップ
● レモン汁……………1/2個分(大さじ1) |
| ● 卵……………2個 | |
| ● グラニュー糖……………140g | |
| ● オリーブ油……………3/4カップ | |
| ● レモン汁……………1/2個分(大さじ1) | |

作り方

- ①型に合わせてクッキングペーパーを敷く。オーブンは160℃に予熱する。
- ②にんじんと小松菜はフードプロセッサーでみじん切りにする。
- ③ボウルに卵を割りほぐし、グラニュー糖を加えてよくすり混ぜる。オリーブ油を加えてさらに混ぜる。
- ④②のにんじんと小松菜とレモン汁を加えて混ぜる。
- ⑤Aを合わせて④にふるい入れ、ゴムベラで粉気がなくなるまで混ぜる。
- ⑥生地を型に流し入れ、160℃のオーブンで約40分焼く。
- ⑦焼き上がったなら網にのせて冷まし、型から出してペーパーをはずす。
- ⑧ケーキの上に粉砂糖をふりかけて出来上がり。

編集後記

昨年も大型の台風が相次いで発生し、国内に甚大な被害をもたらしました。千葉県南部では、大規模な長期停電や断水が生活面にかつてない爪痕を残しましたが、船橋市でもビニールハウス等の農業用施設が大きな損害を受けるなど、農業被害は大きく、農家に多大な負担を強いており、前年の塩害に続いての被害で農業経営の先行きに不安が残るものとなっています。

地球温暖化の影響で気候変動が著しく、かつての経験則だけでは計れない事態が生じていると思われるため、農林水産業に対する補助や災害に関わる保険制度など、これまでの枠組みを超えた対応が必要であると考えさせられる昨今です。